

<今回>195回目 2016年9月23日(月)16時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」17P邪馬台国論争は終わった一 より

<前回>194回目(16-9-5) 出席者11名

資料 16-08-08-1) 前回のまとめ(清水)

- 2) 静嘉堂三国志関連所蔵資料(菅原)
- 3) 榎一雄氏の反論(8, 9, 10)のワープロ文(富川)
- 4) 文選、市野迷庵、王国維、李心伝(富川)
- 5) 張元濟三国志衢州本原紙(富川)
- 6) 魏都賦(左思)(富川)
- 7) 芸文類聚卷第52論政、善政(富川)

A 報告

小松さんを横山さん、清水で横須賀の介護老人保健施設野比苑にお見舞に行ってきた。8月末で退所と喜んでた。清水が泉区歴史の会で聖徳太子の謎と題して2時間半の講演をしたが元歴史の会会長で高校の日本史の先生だった方から質問を受け、全く古田史学をしらず、古田武彦の名前も知らなかったことにびっくりしたと報告。

津多家で会食9名、16665円(2000円・8名) —665円

B 資料 -2)は菅原氏が静嘉堂の三国志関係の蔵書を調べて頂いたもの、これをみると膨大な蔵書で学者たちがこぞって調査しているのがわかる。

)榎氏の反論の次の三回分をワープロ化してくれたもの。(8)版本のミステリー 結論は百衲本の魏志卷四以下(宮内庁蔵書の写真版、紹熙本といわれるもの)は他の本との混合テキストという。張元濟の厳正さに疑問を呈している。百衲本は見事な印刷体である。(異版のリプリント) 魏志倭人伝も版本は同じでないと、くどいほど言っているが**本文と注の内容は同じ**と言っている。しかしリプリントしたと称する百衲本は紹熙刊本かどうか分からないとしている。写真版をそのままリプリントしたのなら行数も文字数もいろんな形態があるのがおかしい。(9)紹興本には対馬国、とある。紹熙本は対海国である。中国人がつけるはずがない名前であると云う理由で、無理な説明という。紹熙刊本と咸平刊本と形式が異なっている事を詳細に記述しているが結局、版本の底本から**古田氏の推定は大体あっている**事を認めている。彼の疑問は何故北宋の刊本に依れば正しく、南宋の刊本なら南宋代の知識による改訂があったのか?絶対に正しいとはいえないというもの。(10)台の意味 台は天子に関連した施設に使われている事を事細かに言いながら、外国の国名を表すのに使われてはならないとは言えないと云う。壹は古田の説明を否定していない。版本の施行経過を述べているだけである。古田の言う**二心なき忠節をつくす意味と解してよいだろう**と言う。良い字が外国の名前の一部に使われてよいの-3なら台が使われていてもよいだろうという。一大国については何も指摘してなく、紹興本は一支国と表示しているだけをいっている。

資料4)から7)までは上記の関連資料

C 読書「邪馬壹国の論理」P16邪馬台国論争は終わった 序 から

邪馬台国はどこにあるかは永遠の謎であると大家が言う時、偏見なき結論と感じさせる響きを持っているが、私・古田がもう謎でないと云うのは、恐れを知らぬ行為なのであろうか。この本を見て判断してほしい。

次回日程 2016-10-7(金) 16時~18時 1503号室

-10-26(水)16時~19時 1503号室

-11-7(月) 15時~18時 1503号室